現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和５年４月

（１）知名町でトランスバーラ植付実演を実施（R5.4.19）

４月19日，大島郡での新たな飼料作物として期待の高い「トランスバーラ」の実証展示ほを，知名町育苗センター農場に設置しました。昨年度の実証試験で定着率の高かった条植え区や，播き苗区，株移植区を設け，その定着率を確認することを目的としています。当日は，知名町の農家にも呼びかけ，植付法の講習会も併せて実施したところ10人の参加があり，「早速植付を実施します」との声も聞かれました。農業普及課は，今後実証展示ほ場を使った現場研修を重ねながらトランスバーラの普及を図っていきます。

（２）えらぶゆり「咲八姫」の出荷が４月中旬から始まる

県が開発したテッポウユリ初の八重品種「咲八姫」の出荷が４月中旬から始まりました。ジャパンフラワーセレクション切り花部門で2022年最優秀賞として選ばれた「咲八姫」は，関係機関・団体と連携して出荷前にチラシ・ポスター・動画の作成，市場のＳＮＳ，フェア，テレビの朝の情報番組によるＰＲ等に取り組みながら認知度を高めてきました。出荷本数は昨年度の３倍量の１.2万本以上を目指します。農業普及課は産地拡大のため，引き続き支援を行っていきます。

JR博多駅で展示PR

（３）スプレーマムスマートフラワー規格で３月彼岸出しの実績は好調

令和４年７月からスマートフラワー規格で全量出荷が行われているスプレーマムの３月彼岸出し（２月下旬～３月下旬）は，生育が順調で出荷本数や平均単価は良好でした（出荷本数は前年比52%増，平均単価は前年比14%高）。３月彼岸出しの相対契約率は約15%増加し，実需者のニーズが高まってきています。生産者はこの実績を受け，需要期の安定生産への意欲がさらに高まりました。農業普及課は引き続き生産安定の支援を行っていきます。

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和５年５月

（１）さとうきびハカマロールサイレージ給与調査を実施

さとうきびと肉用牛の耕畜連携による粗飼料確保に向けて，奄美群島の全島で実施しているさとうきびハカマロールベールサイレージの給与調査を，５月中旬に知名町と与論町の肉用牛農家２戸で行いました。今回は，さとうきび収穫後のハカマや梢頭部を約４か月間サイレージ発酵させ，母牛に給与し，嗜好性の調査を行いました。２戸とも通常給与している既存粗飼料とほぼ遜色がない嗜好性を確認し，今後の新たな自給粗飼料として期待が高まる結果となりました。

（２）「第１回よろん和牛女子定期総会」開催後，技術研さんを図る

５月10日，与論町役場で「よろん和牛女子」の総会が会員12人全員出席のもと開催されました。当組織は，農業普及課が働きかけ，令和４年８月に畜産に携わる女性で組織化されました。総会において会長は，「各種研修会や相互の牛舎視察，セリ市でのＰＲ活動などを行いながら親睦を深め，自らの経営や与論町の畜産を活性化していきたい」と抱負を語りました。総会終了後，農業共済組合南大島支所与論事務所の獣医師による母牛分娩時の管理について研修を行い，技術研さんを図りました。

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和５年６月

（１）与論町４Hクラブ産「蜂蜜」，今年も大人気で即日完売！！

５月28日にＪＡ選果場で開催されたＪＡ農機祭りで，与論町４Ｈクラブが共同プロジェクト「養蜂」の成果品である「蜂蜜」を販売しました。昨年に引き続き２度目で，１本200ｇ入り1000円で販売したところ，クラブ員や関係機関等配布分を除く67本は即日完売しました。与論島地域特産品の創出を目指し，試行錯誤を重ねながら取り組んできた「与論島産百花蜜」，心待ちにしていた島民も多く，次回は11月のヨロンマラソンで販売予定で，売上は島外研修旅費に充てる予定です。

（２）持続的なさとうきび生産についてワークショップで意見を出し合う

６月７日に与論町役場においてさとうきび作業受託オペレータ10人，関係機関10人が参加し，与論町さとうきび受託調整実証検討会が開催されました。持続的なさとうきび生産体系構築に向けた改善策に関するワークショップでは，３班に分かれて意見を出し合いました。各班が取りまとめた意見について投票した結果，今後の課題として，受託調整組織の確立などが選定され，受託調整組織の重要性が再確認されました。農業普及課は引き続き令和６年度の受託調整組織設立に向け支援を行っていきます。

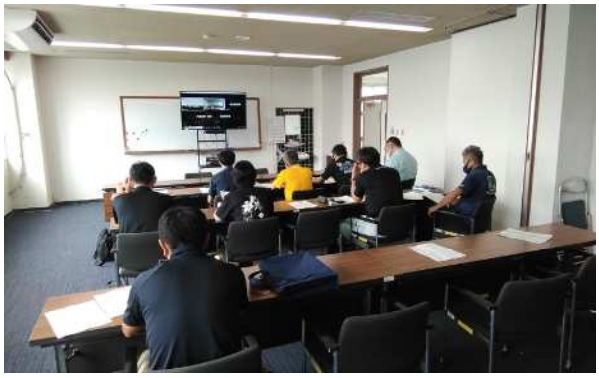
（３）与論地域トルコギキョウ生産振興検討会をＷＥＢで開催

６月19日に与論地域トルコギキョウ生産振興検討会がWebで開催され，地元６人，県園振協７人が参加しました。与論地域をモデルとした自家育苗技術の確立と共に収益性の高い品種の選定を行い，奄美地域に適した経営モデルの作成・普及を行っていくことになりました。今後，７月中旬に生産者を交えた育苗に係る現地調査と聞き取りを行っていく予定です。

（４）スプレーマム及びソリダゴのスマートフラワー規格実証を行う

沖永良部花き専門農協では，実需者のゴミ削減と流通コスト低減が期待できるスマートフラワー（通常より10cm短くした70cm規格）の全量出荷を，スプレーマムは令和４年７月から，ソリダゴは11月から全国で初めて取り組んでいます。今回，スマートフラワー規格の改善を目的に，６月８日から神奈川，千葉，東京，広島で，切り花加工業者や市場等で実証を行い，大きな問題がないことが確認できました。今後も実需者ニーズにあった商品作りを支援していきます。

（５）「咲八姫」２期目の出荷反省と次年度に向けた意見交換



６月23日にテッポウユリ八重品種「咲八姫」の出荷実績検討会がWebで開催され，生産者，関係機関21人が参加しました。園振協と連携した栽培技術支援や，マスコミやＳＮＳ等活用による仲卸業者と連携した販売・ＰＲ面での支援により，令和５年４月出荷実績は５戸・約11,000本で，昨年度出荷量の2.3倍に増産されました。次年度は定植本数を２割増加して出荷量の拡大につなげる予定としています。今後も安定生産・単価安定に向け，関係機関と連携して支援を行っていきます。

（６）かごしまブランド沖永良部ばれいしょの出荷実績

令和４年産のＪＡあまみ和泊・知名のばれいしょの出荷実績は，数量6,578ｔ（前年比71%）金額1,578万円（前年比79%）となりました。面積はほぼ前年並みで植付は順調でしたが，11～12月にかけての多雨・低日照の影響，１月の少雨や強風，２月の低日照の影響で回復が遅れ，長系品種(メークイン，ホッカイコガネ)は小玉傾向・低単収となり，出荷量は前年より減少しました。今後も継続して安定生産に向けて，関係機関と連携を図っていきます。

（７）沖永良部地区生活研究グループ総会及び研修会の開催

６月19日に知名町中央公民館で，沖永良部地区生活研究グループ総会及び研修会が開催され，沖永良部島及び与論島のグループ員37名が参加しました。総会終了後の研修会では，「学ぼう・伝えよう講座」として，近年増加傾向である災害に対して「防災に関する備え」の研修を行い，防災意識や知識を高めました。その他，各町２品ずつ「旬の夏野菜料理」を試作して会場に展示し，考案者がレシピを紹介することで，技術の交換が図られました。

（８）基幹牧草ローズグラスに変わるトランスバーラの栽培方法を学ぶ

６月22日に知名町のトランスバーラ実証展示ほで自給飼料現地研修会を実施し，畜産農家ら約20人が参加しました。参加者は４月19日に植え付けた苗を見ながら，土壌鎮圧を十分に行い土壌水分を保たなければ活着しないことを学習しました。また，今年度発生多発しているローズグラス褐点病の実物による説明に大変興味を示していました。トランスバーラについては，実証展示ほ場を苗ほ場として利用予定で，今後栽培者数の拡大が期待されます。

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和５年７月

（１）奄美農業を語る会で活発な意見交換

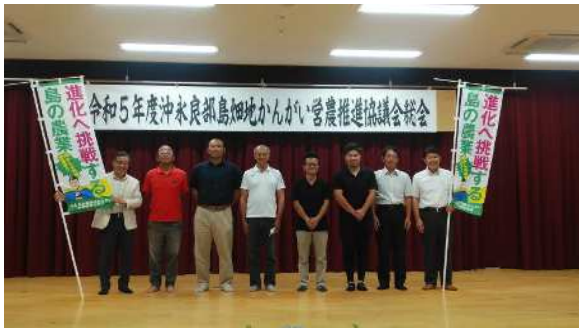
７月10～11日に和泊町で「奄美農業を語る会」が開催され，奄美地域の経営者クラブ員，地元生産者代表，関係機関・団体職員63人が出席しました。会議では，各島代表３人の方が，輸送コスト対策，機械の有効活用，さとうきびハカマの有効活用など離島特有の課題を克服して経営に取り組んでいる事例発表を行いました。経営事例発表後に参加者から多くの質問があり，有意義な意見交換が行われました。今後とも，地域農業の課題への対応について，関係機関と連携して取り組んでいきます。

（２）畑かん営農推進協議会総会を開催

６月23日に和泊町やすらぎ館で沖永良部島畑地かんがい営農推進協議会総会が開催され，委員と幹事，畑かんマイスターなど約30人が参加しました。総会では，令和４年度の活動実績報告や畑かん実証ほ場でのさといもの収益向上について紹介されました。また，今年度は，各専門部会で営農ビジョンの検証やアクションプログラムの見直し等を検討することを申し合わせました。今後とも関係機関と連携して，畑かん営農の推進を図ります。

（３）畑かんマイスターを7人に委嘱

６月23日に和泊町やすらぎ館で沖永良部島畑かんマイスター連絡会総会が開催され，畑かんマイスターや関係機関など12人が参加しました。総会では，令和４年度に取り組んだ畑かん営農の事例を紹介後，委嘱状が交付されました。令和５年度は，７人（退会者１人，新規加入者１人）の畑かんマイスターが関係機関と連携した畑かん営農推進活動や地域農業への波及に取り組むこととしました。



（４）さとうきびの単収向上に畑かん推進

７月12日和泊町，13日知名町で，畑かん営農推進研修会が開催され，農家や関係機関など合わせて約50人が参加しました。研修会では，Ｒ４年産さとうきびの低収要因の説明後，徳之島支場の講師から，さとうきびへのかん水効果や「はるのおうぎ」の特徴について説明がありました。梅雨明け以降，まとまった降雨がない状況が続いていることから，畑かん利用に向けた格好の啓発の機会となりました。今後，さとうきびの単収向上に向け，積極的な畑かん利用が期待されます。

（５）沖永良部島の新規就農者を励ます

６月29日に知名町立中央公民館で，令和５年度新規就農者励ましの会が開催され，４人の新規就農者と和泊町，知名町の両町長をはじめ，関係機関，指導農業士，農業青年クラブ，女性農業経営士など約60人が出席しました。会議では，新規就農者支援の各種施策や支援体制等の紹介，農業青年クラブの活動紹介，新規就農者としての抱負発表の後，両町長による励ましの言葉をいただきました。今後，これを機会に新規就農者への支援を円滑に進めていきます。

（６）与論町で農産加工の基礎を学ぶ

７月５日に与論町で農業大学校主催の「令和５年度農産加工基礎研修（入門コース）」が開催されました。午前中の室内研修には，29人が参加し，農産加工の基礎知識，食品衛生，県内優良取組事例紹介などの講義があり，うち10人が，午後から農産加工基礎研修として，「いしかた（与論町在来柑橘）」ジャムのびん詰め，「島らっきょう」浅漬けのフィルム包装を実習しました。今後さらに農業大学校との連携を密にして，新たな加工品などの生産振興を図っていきます。

（７）与論版さといも疫病対策ＩＰＭ等でさといも産地の復活に期待！

６月29日に与論町のさといも疫病対策実証ほ場で，新技術現地検討会を開催し，約20人の参加がありました。参加者は，昨年度農業普及課が開発したさといも残渣の簡易処理法の実演を見ながら，①残渣処理，②種芋の水選別・一斉消毒，③ドローンによる一斉防除を組み合わせた高齢農家でも取り組める「与論版さといも疫病対策ＩＰＭ」を学ぶとともに，疫病抑制効果に強い関心を持っていました。今後，当ＩＰＭや省力化技術の利用拡大で，さといも栽培面積の拡大が期待されています。

（８）与論地域トルコギキョウの課題を検討

与論町のトルコギキョウ栽培は，温暖な気候を生かして，冬春期に無加温で出荷されています。７月12～13日にＪＡあまみ与論事業本部で，生産者，関係機関・団体計12人が参加し，トルコギキョウ生産振興検討会が開催されました。栽培課題を解決するため，関係機関と連携して，今年度は作付計画や販売データを分析するとともに，自家育苗の実態調査を行い，品種ごとの収益性指標や自家育苗体系暦を作成することとなりました。農業普及課は，農家の経営安定のために今後も支援します。

（９）若手キク生産者がキク産地枕崎や曽於地域で意見交換

６月27～28日に沖永良部花き専門農協の青年部が，県内のキク産地である枕崎大塚地域やＪＡそお鹿児島管内を初めて視察研修し，生産者や花き関係機関・団体と意見交換をしました。枕崎の室内・現地ではお互いのキク生産の特徴（沖永良部は平張・露地栽培，枕崎はハウス栽培）について活発に意見交換ができました。また，曽於地域では，現地視察でスプレーギク高単収技術等の取組を検討しました。今後は，枕崎生産者が２月に沖永良部に来島し，さらに産地間の交流を深めることになりました。

(10) バイヤーと花きのマーケティングについて意見交換

７月５日に知名町フローラル館で，えらぶの花マーケティング研修会が開催され，生産者や関係者等26人が参加しました。福岡・東京のバイヤーからは「アフターコロナ，変化する花き需要に向き合う（ブライダル編，量販編，ショップ編）」というテーマで取組が紹介されました。産地からは流通改善の取組や博多でのＰＲイベントの報告を行い，最後に今後のえらぶの花に関する意見交換を行いました。今後もブランディング やＰＲ等の活動を，国内外のバイヤーと連携しながら進めます。

（11）スプレーマムスマートフラワー規格での出荷実績が好調

令和４年度（令和４年７月～令和５年６月）からスプレーマムがスマートフラワー規格で全量出荷されていますが，前年と比べて出荷本数は約６％増，平均単価は約12％高，予想相対率は８％増と過去３年間で最も良い成績となりました。実績が好調な要因は，需要期12月，３月出しよりも７～９月出しの生産量，平均単価が向上したことが考えられます。生産者は需要期の安定生産への意欲がさらに高まっており，引き続き生産安定を支援します。

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和５年８月

（１）関係者一体となった野菜部門新規就農者カウンセリングを実施

８月22日に与論町役場で与論地区現地就農トレーナー野菜部門研修を開催し，新規就農者２人，指導農業士，関係機関等10人が参加しました。今回は，新規就農者ごとにカウンセリングし，聞き取り内容に基づき令和４年度産栽培状況や，過去３年分の決算，４年度産生産実績，５年度生産計画について１人1.5時間の検討を行いました。関係者一体となった支援により経営は年々改善が見られており，指導農業士からは「あとは本人次第だが，今後も継続して支援してほしい」との評価が得られました。

（２）沖永良部果樹生産組合マンゴー品評会で栽培技術等を学ぶ

７月28日にマンゴー品評会が和泊町で開催され，組合員，関係機関等約50人が参加しました。玉揃い，外観，糖度，食味の項目で出品23点を審査し，金賞１人を含め５人が入賞しました。今年度は開花期から収穫期の天候に恵まれたこともあり，高品質な果実が多く，出品点数も例年より多くなりました。また，農業開発総合センター大島支場の研究専門員から着花安定対策を，農業普及課から熱中症予防・対策に係る研修も行い，次年産の高品質果実の安定生産に向けて有意義な品評会となりました。

（３）農業経営個別相談会を開催し，法人化へ理解深まる

８月24日に与論町で税理士を招いた農業経営個別相談会を開催しました。相談会では，畜産の２経営体が経営診断を踏まえた法人化のタイミングや税制のメリット，棚卸資産（子牛，育成牛）及び固定資産（母牛，牛舎，機械，農地）の個人から法人への移動方法，円滑な経営継承に向けた法人化の意義について助言・指導がありました。研修終了後のアンケートでは，「前向きに法人を目指したい」,「法人化の意義やメリットを確認できた」との意見があり，有意義な相談会となりました。

（４）知名町花き技連会がグラジオラス新規栽培者に栽培支援

８月28日に知名町技連会花き部会が現地ほ場でグラジオラスの新規栽培者研修会を開催し，計14人が参加しました。研修では，ＪＡの生産組織部会長が定植方法等の栽培管理の実技指導，関係機関が栽培予定ほ場の施肥設計指導，球根助成や生産組織活動等を説明しました。新規栽培者からベテラン生産者・関係機関への熱心な質問があり，高い生産意欲を感じました。今年度は８戸の新規栽培者が約1.5ha，約15万球定植予定で，農業普及課は関係機関と連携して安定生産に向けて支援します。

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和５年９月

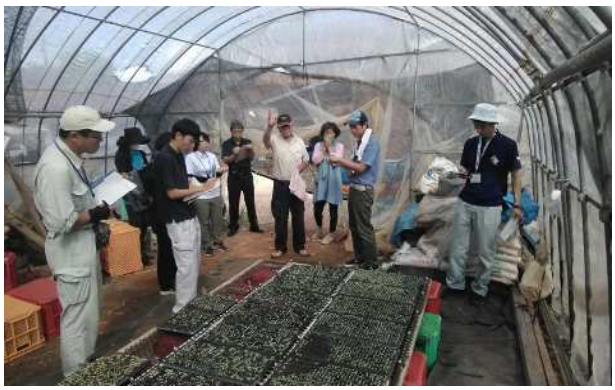
（１）肉用牛研修会で飼養管理技術や自給飼料生産等の重要性を学ぶ

９月12日，沖永良部家畜市場で肉用牛修会を開催し，87人が参加しました。農業普及課から「母牛の繁殖管理と草づくり等の飼養管理技術について」，ＪＡあまみから「インボイス制度の影響について」それぞれ１時間の研修内容でした。出席者は子牛価格の下落や飼料費高騰と経営状況の厳しさを改めて認識するとともに，「母牛繁殖率向上，自給飼料生産による飼料費低減への取組がいかに重要であるかを再認識する良い機会となった」との声が聞かれました。

（２）テッポウユリ「咲八姫」の作期拡大を検討

９月11日，沖永良部花き専門農協で県育成八重咲きテッポウユリ「咲八姫」の栽培検討会を開催し，生産者や園振協本部を含む関係機関の21人が参加しました。令和５年度は，作期を拡大し３～４月出し栽培を行い，その栽培管理等について検討しました（昨年度の出荷時期は４月中～下旬出しのみ）。生産者はテッポウユリの生産拡大の起爆剤として非常に期待しており，農業普及課は今後も重点的に安定生産に向けた支援を行う予定です。

（３）トルコギキョウの経営安定に向けた自家育苗体系の確立支援



園振協本部（フラワーＣ，農開総Ｃ花き研究室、徳之島支場，経済連）と連携して管内のトルコギキョウ自家育苗体系表や品種の収益性指標を作成するため，与論（９月７日～８日），沖永良部（９月12日）で自家育苗の実態調査を行いました。調査の結果，育苗土，品種，水管理，施肥方法等は，生産者ごとに異なることが明らかになりました。また，全戸の重要課題として，用土の藻類付着が挙げられました。奄美地域のトルコギキョウのマニュアル化を目指して，今後もさらに栽培情報等を収集していきます。

（４）スプレーギクの無線式小型耕うん機を実証

スプレーギクの畦連続使用技術（８月出し後，畦を壊さず連続して12月出しを栽培）は，全面耕うんより６割省力化でき，沖永良部島では現在４ha以上普及しています。９月８日，和泊町役場と連携し，スプレーギク生産ほ場でさらなる省力化を図るために，無線式小型耕うん機の実証を行いました。その結果，慣行より作業時間の短縮や体への負担軽減が実現できると高い評価を得ました。今後も継続して調査し，総合評価を行う予定です。

（５）花き専門農協の令和４年度の販売金額がスマートフラワーで好調

９月６日，和泊町防災拠点施設やすらぎ館で３年ぶりに人数制限無しで沖永良部花き専門農協総会が開催され，約70人が参加しました。令和４年度全花き販売金額は，スプレーギクやソリダゴのスマートフラワー規格出荷が販売好調で，前年度と比べ約８％増でした。総会後，熟練者と新規就農者がリアルタイムに映像・音声を共有できるスマートグラスの実演会があり，生産者の関心を引いていました。

（６）知名町花卉振興会が市場と花き生産の取組について意見交換を行う

９月４日，知名町フローラル館で３年ぶりに対面の第40回知名町花卉振興会の通常総会が開催され，60人が参加しました。令和４年度全花き販売金額は，生産者の減少により約1.8億円で，前年度と比べ約14%減でした。今年度は，新規栽培者によるグラジオラスや露地ユリ「スカイホルン」の生産量増，既存の生産者によるテッポウユリ「咲八姫」の生産量拡大も見込まれ，花き産地の活性化が期待されます。また，花き市場と安定出荷・安定価格について活発な意見交換が行うことができました。

（７）奄美群島青年農業者交流会で「儲かる農業」について検討する

９月７～８日に知名町フローラル館で，奄美群島青年農業者交流会が開催され，奄美群島の青年農業者14人が参加しました。１日目には，「儲かる農業を目指して」というテーマでグループディスカッションを行いました。検討後，グループ毎に結果を発表し，課題としてあがった人材不足や販売価格の安定化などの解決策として，北海道などの南北連携による人材確保や個販の取組等が出されました。２日目は，サトウキビのビレットプランタや経産牛肥育の取組について現地視察を行いました。来年度の当交流会は，徳之島で開催予定です。

（８）ハイブリッド講座で新規就農者・若手農業者が農業の基礎を学ぶ

就農後間もない農業者の経営に必要な基礎的知識の習得を目的とした「新規就農講座」を沖永良部事務所で開催しました。内容は，８月17日「農業経営の基礎」「畑かんによる水利用」，９月６日「家畜飼養の基礎」「堆肥製造の留意点」，９月８日「病害虫対策」「生産工程管理」「土壌肥料」「農作業安全」の８項目でした。参加者は，延べ46人で，与論町からも参加できるようWeb開催を併用しました。講義終了後は，多くの質問が寄せられ，充実した講座となりました。

（９）与論町若手さとうきび農家が高単収に向けた栽培管理について学ぶ

９月11日，与論町でさとうきび栽培研修会を開催し，若手を中心としたさとうきび農家13人と関係機関８人が出席しました。最初に現地でビレットプランタ実証ほや高単収ほ場でのかん水状況や雑草防除等の栽培管理の実態を学びました。その後の室内研修では，昨年度の土壌分析結果（142ほ場）から，意外と低ｐＨほ場が多いことを踏まえた土壌改良の必要性について学びました。農業普及課は，今後もさとうきびの生産安定を支援していきます。

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和５年10月

（１）さやいんげん栽培研修会で低温・日照不足対策を学ぶ

10月５日，与論町でさやいんげん栽培研修会を開催し，生産者，関係機関61人が参加しました。近年の課題は，12～２月期の低温，日照不足による減収や，基礎知識が乏しい新規就農者の存在があります。そこで，研修会では低温・日照不足対策実証成果を３事例を紹介し，併せて，土づくりや施肥・水・温度・草勢管理，ＩＰＭ等生理生態を考慮した栽培技術を指導しました。参加者からは，「知らなかった情報で長年の疑問が解決した」等の意見があり，今後に期待が高まる研修となりました。

（２）徳之島・沖永良部畑かんマイスター意見交換会で交流を深める

10月４日，徳之島で令和５年度徳之島・沖永良部島畑かんマイスター意見交換会が開催され，畑かんマイスター10人（うち沖永良部３人），関係機関15人が参加しました。現地視察は，畑かんマイスターのほ場を中心に行い，新規品目の取組状況等について説明を受けました。室内検討では，両島での畑かん利用状況や畑かん推進の課題等について議論し，相互理解を深めました。今後とも両島畑かんマイスターの交流を深めることで，畑かん営農の理解促進が進むことが期待されます。

（３）夏スプレーギクの出荷実績と輸送上の課題について検討

10月２日，沖永良部花き専門農協で夏秋スプレーギク出荷実績検討会が行われました。盆出荷の予約注文数（７月21日～８月16日）約107万本に対し，台風６号の影響で８月２日～11日分の約50%が欠品となりました。一方，９月出荷では，１か月間高値で推移しました。７月下旬から導入した鮮度保持シートの利用は，輸送トラブル等でも切り花品質が維持され実需者からの評価が高く，物流の2024年問題でも有効な方法と期待されています。今後も流通上の課題解決に向け，実需者と連携しながら進めていきます。

（４）ソリダゴの夏場の切り花品質対策を検討

９月27日，沖永良部花き専門農協の生産部会で，夏場に消費地でしばしば発生するソリダゴ（切り花）の葉や花の傷みについて，実証や生産者へのアンケート結果を検討し，対策を整理しました。①収穫直後の切り花の熱を逃がす（切り花の束の中心部の蒸れを改善），②きれいな水道水で水揚げを行う，③急激な温度ストレスを避けるため，冷蔵庫への出し入れは頻繁にしない，④切り花は葉が濡れた状態で箱詰めしない等が整理されました。今後，生産者へ波及を図っていきます。

（５）高齢者の就業支援対策として花きの栽培技術を学ぶ

10月25～26日，和泊町で60歳以上の高齢就業者支援対策として，花きの農作業補助講習会が開催されました。座学研修は農業普及課や和泊町役場，実技研修は生産者が講師となり実施しました。研修者は，実技研修としてスプレーギクの挿し芽，本ぽでの定植，整枝作業，テッポウユリの定植作業，ソリダゴの定植作業を行い，初体験の花き作業を熱心に学んでいました。管内の花き栽培でも雇用対策は重要な課題で，今後もニーズにあった雇用対策の支援を行っていきます。

（６）沖永良部島若手さとうきび農家が基本技術について学ぶ

10月23日，和泊町実験農場でさとうきび栽培研修会を開催し，若手を中心に，農家８人，関係機関７人が参加しました。最初に，実験農場ほ場の堆肥活用実証ほで，基肥の堆肥による化学肥料代替実証の現状を確認しました。室内研修では，沖永良部島のさとうきびほ場の実態や土づくり，生育初期の雑草防除の必要性，さとうきびの品種について学びました。農業普及課は，今後もさとうきびの生産安定に向け，若手農家に対する支援を継続していきます。

（７）青年農業者がプロジェクトの取組や意見を発表

10月24日，えらぶ長浜館で，沖永良部地区青年農業者会議を開催し，農業青年クラブ員，指導農業士，関係機関等合わせて53人が参加しました。プロジェクト発表では，スプレーギクのマルチ栽培の取組，共同プロジェクトとしてアセロラ栽培（和泊）や新規品目探索（知名），養蜂（与論）について発表しました。また，意見発表では，２人が今後の目標について発表しました。参加者からは助言や激励があり，クラブ員が互いの取組や目標を理解し，自分の経営について考える機会となりました。

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和５年11月

（１）与論さといも疫病対策の改善が進む～第２回疫病対策アンケート～

10月31日，与論島でさといも栽培講習会が開催され，生産者，関係機関41人が参加しました。昨年度，初めてのさといも疫病対策アンケート調査を全戸で実施し，疫病の発生が少ない農家と多発農家の栽培管理状況をデータで示しました。今年度も改編した対策アンケート調査を実施した結果，多くの点で改善が進み，疫病による芋腐敗ゼロ率は前年から33ポイント向上しました。次年産は，与論版さといも疫病対策ＩＰＭ防除体系等の対策マニュアルの実施により，増収への期待が高まっています。

（２）与論町４Ｈクラブ産「蜂蜜」は与論マラソンでも大人気

11月18日，４年ぶりに開催された与論マラソン（前夜祭）で，与論町４Ｈクラブが共同プロジェクト「養蜂」の成果品である「蜂蜜」を販売しました。今年の販売は６月に引き続き２度目で，１本240ｇ入り1,500円で販売し，準備した100本を完売しました。令和３年度から与論島地域特産品の創出を目指し，試行錯誤を重ねながら取り組んできた「与論島産百花蜜」。年を追うごとに心待ちにしている島民も多くなり，クラブ員の活動参加率も向上しており，今後の展開が期待されます。

（３）知名町地域計画作成に向けた話し合いが全集落で始まる

知名町の地域計画策定のため，10月27日から11月13日にかけて，町内14集落で10年後の集落の農業の方向性についての話し合いが行われました。比較的若い農業者が多く，遊休農地がほとんどない現状をふまえ，農業形態は現状維持で，集落内の農地は集落の農業者が耕作することを基本に，高齢化等でリタイヤする農業者は農地バンクに貸し付けるべきとの意見が多くを占めました。農業普及課では，地域の意向を反映した地域計画作成に向けて，今後も話し合い活動の支援を行っていきます。

（４）与論町トルコギキョウの栽培実態調査

11月21～22日，与論町で園振協本部（フラワーセンター，経済連），与論町，ＪＡあまみ与論と連携して，管内トルコギキョウの栽培体系表や品種の収益性表を作成するため，トルコギキョウ栽培方法や定植本数を実態調査しました。調査の結果，各生産者ごとに栽培方法は異なるが，アザミウマ加害やチップバーン（花飛び）の対策が共通課題として挙げられました。今後も実態調査を行いながら，地域のトルコギキョウ栽培のマニュアル化を目指します。

（５）現地就農トレーナー研修会でソリダゴ生産者が輸出対策を学ぶ

11月９日，与論町中央公民館で，指導農業士会主催のソリダゴ研修会を開催しました。沖永良部の輸送方法の取組として出荷箱の変更（ソリダゴやクルクマの湿式縦箱輸送から乾式横箱輸送への転換），出荷規格の変更（スプレーギクやソリダゴの切花長を10cm短くした70cm規格への転換），鮮度保持シートの導入（ソリダゴや夏秋スプレーギク）等を紹介しました。物流の2024年問題も迫り，輸送コストや鮮度維持に関して関心が高かったです。今後も，現場のニーズにあった研修会を実施します。

（６）市場とテッポウユリ八重品種「咲八姫」の販売対策を検討

11月７日，沖永良部花き専門農協でテッポウユリ「咲八姫」の販売対策会議（Webハイブリット）を開催し，市場，沖永良部の生産者及び県内の関係機関27人が参加しました。沖永良部では，定植球数が約36,000球で前年の約２倍に拡大し，出荷時期は３月下旬～４月出しの予定です。また，仲卸業者，県外事務所と連携した効果的なプロモーション活動や販売単価，出荷規格について，市場も含め意見交換を行いました。今後，関係者と連携して生産・ＰＲを支援していきます。

（７）農総センターや農業機械メーカーで機械化による農業技術を学ぶ

11月17～18日，和泊町の花き生産者や関係機関が，県内研究機関やメーカーを訪問し，環境にやさしく省力化できる農業機械を情報収集しました。農業開発総合センターでは，ロボットトラクタの利用技術開発等の取組を，南薩地域の農業機械メーカーでは，少量農薬散布が特長の乗用型茶園防除機等の情報を収集しました。また，その他の花き農業機械についても，活発な意見交換を行いました。管内では，無線式小型耕うん機の実証に取り組む等，省力化技術のニーズが高まっており，これらの技術導入に向け，引き続き支援します。

（８）畑かん営農推進大会を開催

11月15日，知名町フローラル館で県主催の畑かん営農推進大会を開催し，島外を含む農業者や関係機関・団体の約160人が参加しました。推進大会では，沖永良部で勤務経験のある普及員ＯＢの中木場氏が，これまでの経験に基づく畑かん営農推進の手法や，畑かん利用効果等について講演を行いました。その後，畑かんマイスターの大勝氏が，さといもでの水利用効果の紹介や，えらぶゆり栽培にかける思いなど事例発表を行いました。今回を契機として，さらなる畑かん営農の推進を図っていきます。

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和５年12月

（１）次年産マンゴーの安定生産に向けて技術交流

12月12日，和泊町で生産者及び関係機関約50人が参加し，沖永良部果樹生産組合のマンゴー研修会が開催されました。町内の２園地で収穫後の栽培管理や花芽分化期の生育状況を相互検討の後，役場で組合の視察研修報告（沖縄県石垣島）と当面の栽培管理のポイントや着花向上対策に係る研修・意見交換を行いました。研修会には，徳之島から生産者等10人も参加し，両島のマンゴー生産者同士の技術交流が図られるなど，次年産の安定生産に向けた有意義な研修会となりました。

（２）露地ユリ「凛」に期待を寄せる

12月６日，和泊町の３人の生産者ほ場でテッポウユリ現地検討会を開催し，生産者及び関係機関の11人が参加しました。このうち一人の生産者は，露地生産が可能である「凛」をフラワーネットなしで栽培していました。生育状況は，強風による多少の曲がりがありましたが，比較的良好なことが確認されました。今後，防風対策等を改善していくことで，フラワーネットのない栽培も可能となることが期待されました。今後も，テッポウユリ生産安定に向けた支援を継続していきます。

（３）トルコギキョウ研究会が安定生産や販売について学ぶ

12月１日，沖永良部花き専門農協で，東京の花き市場担当者を交えトルコギキョウ研究会の研修会が開催され，14人が参加しました。最近増加している自家育苗や本ぽでの生育状況,市場の最近のトレンドを含む販売状況を学ぶことができました。その他２か所の現地検討を行い，スリットマルチ，クロゲハナアザミウマ対策，ＬＥＤ照明による安定生産対策について，熱心に意見交換を行うことができました。今後，生産者の資質向上を図るため，１月に徳之島で産地間交流を行う予定です。

（４）<u>よろん和牛女子が島内研修で畜舎訪問し情報交換</u>

11月30日，与論町でよろん和牛女子会員10人及び関係機関３人が参加し，「よろん和牛女子島内畜産農家視察研修」が開催されました。研修では，60頭の大規模経営と８頭を１人で管理している２か所を視察しました。それぞれの自給飼料の確保状況や子牛への給与方法，分娩時の工夫，敷草の方法や牛舎の構造などについて，現地で具体的な情報交換が行われ，有意義な研修となりました。今後，よろん和牛女子の活動を通じて様々な支援を進めていきます。

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和６年１月

（１）奄美群島花き交流会で他産地の栽培事例等の情報を収集

１月11日，徳之島で開催された奄美群島花き交流会に，奄美・徳之島・沖永良部の生産者，関係機関27人が参加し，農業開発総合センター徳之島支場，天城町農業センター，生産者の取組を学びました。それぞれの産地における品種，自家育苗方法，病害虫対策，及び土壌還元消毒等について意見交換を行いました。来年度は，与論島で開催する予定であり，生産者の意識や栽培技術向上を支援していきます。

（２）花き若手生産者が他産地生産者と活発に交流

１月18～19日，沖永良部の花き若手生産者が鹿屋市花き振興会（以下は鹿屋と記載）の花き生産者と和泊町の現地や室内で交流を図りました。室内では，沖永良部のスプレーギクのスマートフラワー，鹿屋の農業の概況やスプレーギク生産等の取組について，活発な意見交換が行われました。また，その夜は，沖永良部の出荷団体を超えた花き若手生産者も参加し有意義な交流会となりました。２月には，枕崎の花き生産者も沖永良部へ来島し，さらに産地間の交流を深めていきます。

（３）かごしまブランド沖永良部ばれいしょの生産状況と出荷計画

令和５年産のＪＡあまみ和泊・知名のばれいしょは，１月15日から荷受けを開始し，633ha（前年比108%）の作付で，４月末までに9,573ｔ(前年比146%)の出荷を計画しています。生育状況は，10～11月の植付初期の少雨により生育に遅れが見られましたが，その後，気温が高く降雨にも恵まれたことから生育は回復し，前年と比較して，いもの個数は少ないが肥大は順調に進んでいます。今後も継続して安定生産に向けて，関係機関と連携を図っていきます。

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和６年２月

（１）与論島の野菜現地就農トレーナー研修会で新技術を学ぶ

２月14日，指導農業士会主催の野菜部門研修会（今年度３回目）が開催され，青年農業者，関係機関等15人が参加しました。研修会は野菜部門の全実証ほ場を巡回し，さといも疫病や連作障害等に対する新技術を学ぶとともに，徳之島支場と連携したさといも種芋の低温短期貯蔵による萌芽試験についても理解を深めました。指導農業士からは，「３年間の取組で地域の課題となっていたものが解決見込みだ。今後も新技術に積極的に挑戦し，他農家にも伝えてほしい」とアドバイスがありました。

（２）かごしまブランド赤土新ばれいしょを消費者にＰＲ

２月３日に和泊町，４日に知名町で「春のささやき」のネーミングで関西，中国，九州地区に出荷している沖永良部の新ばれいしょの出発式が開催されました。市場・流通関係者を招き，それぞれ100人を超える参加者でした。10～11月の少雨の影響で作柄が心配されましたが，その後の天候の回復で順調に生育し，当初計画の9,573ｔの出荷を見込んでいます。２月８～11日には消費地でＰＲ販売を行い，消費者からは，新鮮な新ばれいしょに，おおむね好評を得ていました。

（３）テッポウユリ「咲八姫」及びトルコギキョウの生産状況の確認

１月29～30日にかけてテッポウユリ「咲八姫」及びトルコギキョウ現地検討会が開催され，生産者及び関係機関20人が参加しました。「咲八姫」では，生産者が昨年度の経験を生かし，施肥や球根サイズ等を変更した栽培に取り組み，３月中旬～４月出しを行う予定です。トルコギキョウでは，栽培状況の確認を行い，品種ごとの栽培特性の把握を行いました。今後も園振協本部や島内関係機関と連携し，生産者への支援を行っていく予定です。

（４）与論地域トルコギキョウ生産振興検討会で活動の進捗を情報交換

２月27～28日，与論町でトルコギキョウ生産振興検討会を開催し，生産者，関係機関15人が参加しました。検討会では，今年度の活動内容の途中経過として，与論地域の自家育苗調査結果や，農業開発総合センターでの品種ごとのロゼット性検定試験結果の報告等を行いました。来年度の活動計画では，引き続き生産・販売実態調査や奄美地域版の自家育苗マニュアル作成，種子冷蔵のみで生産可能な品種の生産性調査を行い，奄美地域における収益性の高い経営モデルを作成する予定です。

（５）花き若手生産者が他産地生産者と活発に交流

２月13～14日，和泊町で沖永良部の若手花き生産者が枕崎の周年菊研究会（以下は枕崎と記載）のメンバーと交流を図りました。室内検討では，沖永良部のスプレーギクのスマートフラワー，無線式小型防除機，自走式防除機，無線式小型耕うん機や枕崎での輪ギクのスマートフラワーや暑さ対策の取組について活発な意見交換が行われました。その後の交流会は，沖永良部の若手生産者が多数参加し有意義な会となりました。今後も枕崎の花き生産者と産地間交流を支援していきます。

（６）スプレーマム及びソリダゴ鮮度保持技術の改善実証を行う

沖永良部花き専門農協では，令和４年度からスプレーマムやソリダゴで実需者のゴミ削減と流通コスト低減が期待できるスマートフラワー（通常より10cm短くした70cm規格）の全量出荷を全国で初めて行っています。スマートフラワー規格での鮮度の改善を目的に，１～２月に宮城，栃木，東京での仲卸業，花屋，資材メーカーや市場等で実証を行い、鮮度保持シートによる効果を確認することができました。秋スプレーマムでは，３月彼岸出しから全量その技術を導入することとしました。

（７）女性農業者が花き生産・販売事例や販売ＰＲ情報を収集する

２月６～７日，女性農業者が主体に，千葉県の花き生産・販売の優良事例や東京都の花き流通や農産物ＰＲの情報収集を行いました。千葉では，草花の生産法人とＳＮＳ等を活用したＰＲ方法及び労務管理等，東京では花き市場や大手のバイヤーと花き流通情報について意見交換を行いました。また，ギフトショー2024で農産物ＰＲ，都内ショップで花きのトレンド等の情報収集を行いました。女性農業者は，研修を参考に，えらぶの花のＰＲ素材（花を入れる資材，ポップ等）を作成中です。

（８）バイヤーと花きのマーケティングについて意見交換

２月20日，和泊町にて，えらぶの花マーケティング研修会が開催され，女性農業者や花き関係者が参加しました。福岡・東京のバイヤーと２月上旬の東京・千葉研修で収集した情報を参考に，「えらぶの花」のＰＲ素材やＳＮＳ活用等について検討しました。また，21日は「咲八姫」のブランディングに向けた取組（ブライダル向けの写真撮影や４月に販売するサブスク）も検討しました。今後も，ブランディングやＰＲ等の活動をバイヤーと連携しながら進めていきます。

（９）生活研究グループ員が地産地消推進・地域づくりリーダー研修

沖永良部地区生活研究グループの７人は２月21日，農大で開催された県生活研究グループ大会に参加しました。翌22日に地産地消推進・地域づくりリーダー研修を開催し，「さくらじま旬彩館」で，女性組織の運営状況，加工施設の運営，地域農産物の利用状況及び加工商品開発について研修しました。また，「大隅加工技術研究センター」では，共同研究による商品開発の状況や食品加工機材の設置状況と活用について研修を行い，貴重な情報収集の機会となりました。

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和６年３月

（１）沖永良部で，大島地区肉用牛生産振興大会を開催

２月28，29日，沖永良部島で大島地区肉用牛生産振興研修会が開催され，奄美群島内の農家ら約90人が参加しました。研修会では，経済連の上村利久氏の「肥育農家に求められる子牛育成」に関する講演をはじめ，制度資金利用やハカマロール普及に向けた取組の報告がありました。また，２日目の現地研修では，２戸の肉用牛農家を視察し，サトウキビ農家との耕畜連携の取組や，自給粗飼料の硝酸態窒素中毒防止について，給与中の飼料や生育中のエン麦を確認しながら熱心に研修しました。

（２）グラジオラス新規栽培者が生産に奮闘し花き品評会でも評価

知名町花き技連会は，露地栽培が可能で単価が安定しているグラジオラスを推進しています。令和５年度は，10戸の新規栽培者が生産（約16万球，約1.6ha）し，ＪＡ部会と連携した現地指導やＳＮＳを活用した栽培支援等を行ってきました。２月28日，知名町立中央公民館で，知名町切り花品評会が開催され，新規栽培者が最優秀賞を受賞しました。また，新規栽培者の生産状況も順調で次年度の生産意欲も高いです。今後も新規栽培者を育成し，産地化を支援していきます。

（３）テッポウユリ「咲八姫」目揃え会で生育状況と出荷規格を確認

３月５日，沖永良部島でテッポウユリ八重咲き品種「咲八姫」目揃え会を開催し，生産者及び関係機関15人が参加しました。目揃え会では，生産者と関係機関で現地を巡回し栽培状況を確認するとともに，出荷規格を定めました。令和６年産「咲八姫」は，生産者７人が栽培し，定植球数は34,600球です。暖冬の影響で計画より生育が進み，出荷は３月上旬から４月中旬までの見込みです。今後も，「咲八姫」の生産安定を図り，農家の支援を行っていきます。